

## 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和5年9月29日（金）午前10時から

会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

### 【会見項目1：産業界の課題解決へ向けた新たなパートナーを求めて 官民の長岡市視察団がキルギス訪問】

#### （市長）

日本への人材送り出しに国を挙げて取り組んでいるキルギス共和国に、私を団長とした長岡市視察団を派遣します。人材の送り出しと受け入れの枠組みづくりについて、可能性を探ってきたいと考えております。

視察団は、10月10日から12日までの3日間、首都ビシュケク特別市にある関連施設の視察や関係者との会合で調査、協議してまいります。

視察先は、現地の労働省などの政府機関のほか、すでに日本へ学生を送り出している実績がある、アラバエフ・キルギス国立大学附属日本学院や、高度IT人材を輩出するALA・TOO国際大学、日本IT企業の現地法人プライサー ビシュケクなどです。

視察団は、団長の私のほかに商工部長、福祉保健部長などの市職員4人と、長岡商工会議所、長岡産業活性化協会NAZE、介護事業[長岡モデル]研究会などに所属する長岡市内の企業・法人から総勢16人です。

キルギス人材の送り出しと受け入れの枠組みづくりの可能性調査に加えて、人材不足が課題となっている介護・福祉、IT分野などへの人材の送り出しの実現性、現地IT企業との協業や、大学・高専との教育カリキュラムの導入、留学生の受け入れなどについても視察の目的としています。

これまでオソエフ特命全権大使から市長訪問いただいたほか、アラバエフ・キルギス国立大学附属日本学院の四橋代表理事とも協議を重ねて、今回の訪問に至りました。

キルギス共和国は古くからシルクロードを介して日本との交流が盛んであり、近年は地政学的に注目の集まる地域・国です。日本と共通する国民性、高い教育水準を持つ国と伺っています。本日は長岡市国際交流センターの羽賀センター長から、キルギスの魅力、国民性についてご紹介いただきます。

#### （長岡市国際交流センター 羽賀センター長）

キルギス共和国は、国土の90%が海拔1,500メートル以上です。中央アジア5カ国の中で唯一、砂漠を持っていない国です。この国が重要視されるのは、シルクロードの要衝だからです。イスラムと唐が衝突したタラス河畔の戦いもキルギスでのことです。玄奘三蔵もこの国のイシク・クル湖のほとりを回ってインドに行っています。私たちが好きな雪割草の群生地でもあり、シルクロードとともに交流の柱になると思います。

キルギスには日本人とキルギス人は同根という伝説があります。魚が好きな人たちが日本に残り、肉が好きな人たちがキルギスに来たと言われています。キルギス族はシベリアから南下して定住したのですが、中国などいろいろなところに散在しています。キルギス共和国は70数パーセントがキルギス人で構成されています。

GDPの35%が出稼ぎによる国です。出稼ぎ先はロシアが中心でしたが、日本は親しみを感

じる国でもあり出稼ぎ先として抵抗感が少ないのではないかと考えています。これから人的交流が始まると、長岡市民が受け入れ側として意思表示することが大事だと思いますので、国際交流センターで紹介イベントなどをしたいと考えています。

**(市長)**

長岡にとって、日本にとっても親しみのある魅力的な国だと思っており、全国に先駆けてキルギスを訪問して、人材の交流、経済の交流を目指していきたいと考えています。長らく長岡市は国際交流に取り組んできました。国境を越えて繋がっていくことがこれからの日本の繁栄、長岡の繁栄になると考えております。

**(記者)**

これまで産業界の人材不足のため、モンゴルやベトナムとの人材交流を進めてきましたが、今回のキルギス視察訪問でこういったところに期待していますか。

**(市長)**

介護・福祉・医療も含めた長岡の産業界の人材不足を打開するため、ベトナム、モンゴル、中国などいろいろな繋がりを太くして、長岡に来ていきいただきたいと考えています。その新しい選択肢としてキルギス共和国との交流に取り組みたいということです。キルギスのIT関係の高度人材をはじめ、介護・福祉、観光や飲食といったサービス業などを希望する多様な若いキルギスの方が日本語を一生懸命学んでいると聞いております。そういう方々と長岡の産業界をマッチングして、ぜひ来ていただければと考えております。

**(記者)**

地方公共団体として単独でキルギスにこのようなアプローチをするのは初めての事例となりますか。

**(商工部長)**

私どもが聞いている範囲では初めてです。

**(記者)**

長岡の人材がキルギスに行くというよりは、キルギスの人材が長岡に来て欲しいという考えですか。

**(市長)**

まずはキルギスの若者に長岡で働いてもらいたいということがあります。人手不足を補うだけでなく、例えば長岡の企業がキルギスの現地法人を作り、取引先をキルギスやヨーロッパに求める時には現地の責任者になるなど、最終的には相互の経済交流、協力関係を作っていききたいと考えています。

**(記者)**

キルギスの人たちに、長岡という地名はそれほど知られていないものと想像しますが、受け入れ先に選んでもらうために、長岡をどのように伝えていきたいとお考えですか。

**(市長)**

住みやすさや、多文化共生に取り組む町であるということを伝えていきたいです。また、イノベーションで新しい産業を作ろうとしており、日本の中でもこれから大きく発展する可能性のある町だということを訴えていきたいと考えています。

**(記者)**

公費を使った海外視察について、費用や成果の面について社会から厳しい目が向けられていますが、視察費用と適正さについてご説明ください。

**(市長)**

民間を含めた視察団ですが、それぞれが費用負担して、それぞれの企業・団体が、自らの課題を解決する手段を探るため視察に参加します。現地に滞在する3日間について、博物館に1

カ所行くほかは、観光などのスケジュールはなく、ひたすら視察と政府機関との協議に注力します。

(商工部長)

視察費用は、市長と職員4人分の旅費が220万円ほどです。その他、現地コーディネーター委託料などが100万円ほどかかり、全部で320万円程度になります。

(記者)

日本で働くにあたり言語の壁が大きいと思いますが、キルギスの学校のカリキュラムに恒常的にあるいは選択的に日本語を学ぶ環境は整っているのでしょうか。

(市長)

学校で日本語を学ばせて日常会話はできるようにしてから、こちらに送り込むという話は聞いております。

また長岡に来ていただいた後も、どの程度のものが必要かもありますが、日本語を習得するプログラムを長岡市としては用意していきたいと思っています。

(記者)

キルギス大使が6月23日と8月2日・3日に長岡を訪問された際の、こちらにどのようなアプローチがありましたか。

(市長)

キルギスには日本語を学んで日本に来たいという優秀な若者がたくさんいると伺いました。それなら、ぜひ長岡に来ていただけるような形をつくっていきましょうと大使とお話をしました。そこで大使との気持ちの一致はできたと考えて動いています。

## 【会見項目2：かけがえのない文化遺産を未来に！

### 幕末の輸送船「順動丸」シャフトの保存処理を開始】

(市長)

幕末の長岡の歴史を今に伝える市指定文化財「順動丸シャフト」を、今後も長岡の宝、寺泊地域の宝として未来に残すため、このたび文化庁の補助金を活用して、防さび処理などの保存処理を行います。金属製文化財の保存処理は、通常、有機溶剤など特殊な化学薬品を使うことから、県外の専門機関に委託する必要がありました。しかし、今回は地元長岡で継続的に科学博物館職員がシャフトの保存処理をできるようにしたいと考え、東北芸術工科大学の指導を受けて、安全で新しい方法で学びながら作業します。保存処理作業は来年2月下旬までの期間で、寺泊地域にある市の倉庫で行います。処理後は、順動丸や幕末の長岡の歴史を知ってもらう資料として、展示などに広く活用していきたいと思っています。

順動丸は江戸幕府が所有していた外輪式蒸気船です。文久2年に軍艦奉行であった勝海舟が、横浜港でイギリスから15万ドルで購入したものです。幕府の輸送船として坂本龍馬や徳川家茂、長岡藩主の牧野忠訓、河井継之助など幕府の要人・関係者を乗せて幕末の海を航行しました。戊辰戦争が起こると、会津藩がこれを幕府から借り上げて、各地の戦場に兵隊や武器を輸送していました。慶応4年、1868年5月に、寺泊沖で停泊中に出雲崎方面から近づいた新政府軍の軍艦から砲撃を受けて、逃げようとしたのですが燃料切れのために沖に逃げるができず、寺泊港付近の浅瀬に座礁したとのことです。船を奪われるのを恐れた船員たちが爆薬をしかけて、自爆沈没させたというものです。その後残ったシャフトが引き上げられて、寺泊の港の近辺で場所を変えながら展示されていましたが、平成23年5月に一般公開を一旦止めて、現

在は寺泊にある市の倉庫で保管しています。

作業に先駆けて、長岡市は東北芸術工科大学とシャフトの保存処理に関する連携協定を締結しました。保存、活用、調査研究などを推進し、文化財の次世代への継承に寄与するということを目的としたものです。同大学文化保存修復研究センターの伊藤幸司教授を指導者としてお迎えして、トレハロースを使った最新の処理法を採用します。トレハロースは自然界にもある糖類の一種で、これを使ってコーティングする技術とのことです。これだけ大きな金属製品をトレハロースで防さび処理をするのは、世界でも初めての試みだと聞いております。

全体事業費として1,243万円計上していますが、そのうちの文化庁の補助金を除いた市の一般財源分735万円を、ふるさと納税型のクラウドファンディングで寄付を募りたいと考えております。10万円以上の寄付者には、順動丸シャフトに付着している“さび塊”加工したオリジナルのペーパーウエイトをプレゼントします。保存処理の様子も公開いたしますので、取材いただければと思います。

(記者)

シャフトが文化財としてどのような価値があると市長はお考えでしょうか。また、今後の一般公開も含めた活用についてどのようにお考えでしょうか。

(市長)

長らく寺泊水族博物館の隣の駐車場の海側のところに展示してあり、地元の方々にはよく知れたものですが、合併した長岡市民の方でもあまり知らないのではないかと考えています。

長岡の戊辰戦争のさまざまな記録はありますが、具体的な物や遺跡はあまりあるわけではないので、こうした物が具体的に残していけることは、私は意義深いことだと思っています。

寺泊地域の宝として、展示など活用方法をみんなで考えていきたいと思っています。

(記者)

保存処理でさび自体を落としてピカピカにするということですか。

(科学博物館長)

ピカピカに磨くということではなく、さびた状態を残して保存します。ある程度さび自体を手作業でそぎ落として、残った部分について保存処理を行います。まず、お湯をかけながら水槽につけて、塩分を抜いていきます。そのあと、トレハロースを表面にコーティングして、さびが進まないようにします。

(記者)

手でそぎ落したさびをペーパーウエイトとしてプレゼントすることについて、さび自体の文化財としての価値はあるのでしょうか。価値があるものであれば、プレゼントできるようなものなのかお聞かせください。

(市長)

保存作業の中ではがれ落ちるさびは、保存対象とは考えておらず捨てることにはなりますが、もったいないという思いもあり、プレゼントにすることを考えました。順動丸のシャフトから出たさびですので、貴重なものとして大切にいただければと思っています。

(記者)

将来的に順動丸の模型など作る考えはありますか。

(市長)

とてもいい案だと思いますが、今はそれを作るという段階ではなく、まずはきっちり保存処理をします。その後どのように展示するか考えていきたいと思っています。

**【同時リリース】**

**(市長)**

一つ目は、長岡市と産業技術総合研究所、長岡技術科学大学の3者で、バイオ分野を通じて地域経済活性化および地域社会課題の解決を目指す拠点に関するものです。「長岡・産総研 生物資源循環 ブリッジ・イノベーション・ラボラトリ (B I L)」をミライエ長岡の4階に開設します。この記者発表を10月5日に行います。産総研のB I Lとしては全国2カ所目の開設で、この枠組みに行政が入るとするのは初になります。バイオエコノミー推進と産業振興の重要な拠点となります。

二つ目は、「HAKKO trip&week」の開催です。「発酵醸造のまち 長岡」の魅力を発信するイベントで5回目の開催となります。今回は初めて期間を1週間に拡大します。参加する団体が年々増えて今年は90団体を超えます。期間中に新たな試みとして、すべての長岡市立小・中学校、保育園の給食で長岡発酵献立を提供します。また、栄養担当の教職員が地元の味噌・醤油蔵を取材して制作した発酵に関する動画を、子どもたちに見てもらい発酵食品が長岡で古くから作られ、日常的に食卓に上っているということを伝えていきます。

## **【その他の項目】**

**(記者)**

米百俵プレイス東棟の建築工事入札の再開に向けた検討状況、また4回目の入札の時期について説明をお願いします。

**(高見副市長)**

入札状況の調査を進めております。これまで根拠としてきた積算資料と実態との乖離が見られた項目なども見つかっておりますので、現在、積算の見直しを検討しているところです。予算が変わることになりますと、さらに時間を要することになります。その中でできるだけ早く再入札ができるように準備を進めています。入札時期については、現時点で申し上げられる段階ではありません。

**(記者)**

価格の乖離を埋めるために事業費を増すのか、それとも予算内で収めるために設計を変更するのか、どちらの方向性が教えてください。

**(高見副市長)**

双方しなければいけないと思っておりますが、大幅な設計の修正は考えておりません。実態に合わせた予算にする必要があると考えております。

**(記者)**

着工が遅れていることについて、市や市長自身の責任についてどのようにお考えでしょうか。

**(記者)**

関係者、市民の皆さまの期待の中で、落札者が決まらない状況を申し訳なく思っております。これから財政負担が生じることや、オープンが遅れることが考えられますが、最小限の影響でとどめるよう努力したいと思います。

**(記者)**

先日リバーサイド千秋で18歳の高校生が市民を切りつけるという衝撃的な事件がありました

が、市としての対応などあれば教えてください。

(市長)

私も衝撃的な事件だと思います。ただ現在の警察発表の内容では、なぜ高校生がそういったことをしたのかということがわかりません。まず今後の捜査の進展をしっかりと見極めていきたいと考えております。

(記者)

厳しい気候の影響を受けて新米の一等米比率が非常に低いという状況について、市長の認識と、長岡市として農業や所得面など取り組む考えがあるのか教えてください。

(市長)

大変な状況になったと考えており、これから市や国の政策の中で取り組むべきものあると考えております。まず問題となる農家の収入については、県とも協調しながら、農業者への貸付制度を創設したところで、600万円を上限として貸付利率0.35%となるように県と市が0.85%ずつ負担して、1.7%を利子補給しますので、当面の経営の困難な状況をしのいでもらいたいと思っております。また、すでに一部予算化しておりますが、中山間地の田んぼなどでひび割れているところを補修するための支援を行い、来年の作付けがきちんとしてできるように取り組んでいきたいと思っております。高温障害が起きない品種改良に県も取りかかると聞いておりますので、県との連携の中で長岡市は何ができるかも考えていきたいと思っております。

消費者の皆さん、市民の皆さんには二等米、三等米でも食味にはあまり影響がなく、おいしいお米だということはしっかりアピールしていきたいと思っております。

(記者)

今年はブナやコナラ、どんぐりの実りが悪く、クマやイノシシ、サルなどが人里においてくる危険性が高いという話を聞いています。新潟県内でも、人身被害を含めて目撃情報がある中で、長岡市で取り組んでいきたい鳥獣被害対策があれば教えてください。

(市長)

これから冬眠前のクマが食料を求めて里においてくる可能性は高くなると考えております。厳戒体制をとり目撃情報が出たら、機敏に対応できるようにしたいと考えております。